ダニエル・ヤーギン&ジョセフ・スタニスロー著「市場対国家 - 世界を作り変える歴史的攻防 - 」 日経ビジネス文庫、日本経済新聞社 2001 年 11 月 1 日刊を読む

What is Privatization?

- 1 . 2 . Whatever the vision, state companies had often proved in practice to be highly inefficient, inflexible, poorly performing employment agencies, politically pressured to maintain and expand employment far beyond what was needed.
- 3 . They were also unable to resist the wage pressure from public-sector unions, thus becoming major generators of inflation.
- 4 . Because of their inefficiency, their weakness in the face of union pressure, and their insulation from competition in the marketplace they piled up huge losses, which they solved by turning to the taxpayers or,
- 5 . as Lawson put it, by "recourse to the bottomless public purse."
- 6 . Every kind of decision ran the risk of becoming a political decision, driven not by the interests of the firm but by the desires of politicians in power, whether it was wage settlements or new investments in plant location, major projects, and equipment.
- 7 . What was missing was exactly what the Labour promoters of national industries had most disliked the discipline of the market.
- 8 ." What public ownership does, "Lawson declared in 1982, " is to eliminate the threat of takeover and ultimately of bankruptcy, and the need, which all private undertakings have from time to time, to raise money from the market."
- 9 . Public ownership British-style also meant that output and products were not adapted to the marketplace and that the needs and desires of the consumer, the buyer, did not count for all that much.

民営化を考える

国有企業は、当初のビジョンがどうであれ、実際には雇用の面でも、きわめて非効率的で、柔軟性を欠き、実績が低迷していた。必要な水準をはかるに超える人員を維持し、さらに雇用を増やすよう 政治的な圧力を受けていたからである。また、労働組合からの賃上げ要求に抵抗できず、このために、 インフレをもたらす大きな要因になった。事業の効率が低く、労働組合の圧力に弱く、市場での競争から守られているので、巨額の損失を積み上げるようになり、納税者にツケをまわすようになった。ローソン元蔵相によるなら、「公的資金という名の無限の財布をあてにする」ようになった。賃上げであれ、工場立地、大型プロジェクト、機器などへの投資であれ、どのような決定でも、企業自体の利害に基づくものではなく、そのときに政権の座にある政治家の意向による政治的な決定になる危険があった。国有企業に欠けていたのは、産業国有化を主張する労働党の政治家がもっとも嫌っていたもの、すなわち、市場によってもたらされる規律である。1982年、コーソン・エネルギー相がこう語っている。「企業の公的所有がもたらしたものは、買収の脅威を取り除き、最終的には倒産しかねないという脅威を取り除き、民間企業なら時に応じて行なわざるをえない市場からの資金調達の必要をなくすことである。」さらに、イギリス型の公的所有では、製品が市場に適合したものにならず、消費者や買い手のニーズや希望はほとんど考慮されなかった。

[コメント]

小泉政権が行った規制改革、民営化をすべて否定する「ゆりもどし」の動きが大きい。ただ、よく歴史を振り返れば、民営化前の規則強化・国有化は余りにも国民生活や国家財政に困難をもたらしたことも忘れてはならない。この文章は、サッチャー改革前のイギリスの状況を紹介したもの。 英文の原文とともに本書の内容をゆっくりと読み込むことは、日本の方向を誤らないために必要と考える。

- 2009年12月29日 林明夫記-